

令和三年度 級位検定試験発表

総評

審査委員長 東山 右徹

内閣府の認可を受けた「公益社団法人日本総合書芸院」による段位・級位の認定は、社会的公証資格の一つとして、入学や入社の際の評価が高まっています。

今回の受験者総数は、二二〇名で、Aクラス（師範の受験）は、毛筆の部が二十八名の受験で七名の方が合格されました。

Bクラス（準師範の受験）は、毛筆の部が、二十八名の受験で、十九名の方が合格し、硬筆の部では十一名の受験で、七名の方が合格され準師範に認定されました。

Aクラス・Bクラスにおいて見事合格された皆さんは、いずれも日頃の研鑽の成果であり、あらためて心からお喜び申し上げます。

ここに発表された段級位は、変更のあった人のみで十二月課題（十二月二十日締切分）から適用します。また、この成績は、十二月号に発表された規定、かなの昇級分を加えてありますので、重ねて昇級しません。

の練習に努めていただきたいと思っております。今回は漢字、かな共に、例月の条幅作の提出状況を加味した判定法としましたが、特に仮名の条幅作品については、試験時だけの俄か書が多く、全般に低調な出来でした。今回の結果でも、普段の取り組み度合いによって格段の差が如実に表れ、試験時だけの取り組みでは難しい事はあきらめず。

Cクラスも条幅作品での受験になります。が、いきなりとなると、多くは悪戦苦闘の様相で、早くからの取り組みの大切さを物語っています。

Dクラスについては、漢字半切二分の一、かなは半紙での受験、Eクラスについては半紙での受験としましたが月例競書の状況も加味して、各々の段級位が認定されましたが、飛躍が期待される方もたくさん見受けられ頼もしく思いました。

基本的な事ですが、かな作品の落款が〇〇書となっているものや、教室名・段級位のな作品や、定められた要綱に反しているの作も見受けられたので、きちんと遵守することもお願いしたいと思います。

内閣府公認の公益法人である本院の認定を誇りとして、今後とも楽しみながらご活躍賜りますようお願いして総評と致します。

Table with columns for '毛筆部' (Calligraphy) and '漢字の部' (Kanji). It lists names and their corresponding grades/levels across various categories.

Table with columns for 'かなの部' (Kana) and '硬筆漢字の部' (Hard Pen Kanji). It lists names and their corresponding grades/levels across various categories.

第十五回記念 かながわ書道まつり に出品しましょう!!
今回の「復興応援チャリティー小品展」として開催されます。
今回は本院の理事長である東山右徹先生が実行委員長を務めることになりました。
これまでは毎日書道展会友以上の出品でしたが、第十五回記念展として開催します。
一回でも毎日書道展に出品された方は出品できます。是非出品をお願いいたします。